

■正誤問題 (過去に出題された選択肢) 22 問

建具・ガラス工事に関する問題です。○×で回答して下さい。

答えが×になった場合は、どこが間違っているのかも考えてみましょう。

1. 屋外に面したアルミサッシについては、合わせガラスを使用する場合、下端ガラス溝に径 6mm の水抜き孔を 3 箇所設けたものとした。
2. アルミサッシの取付けに当たって、部材の寸法を切り詰めたので、モルタルに接する部分に、アクリル樹脂系塗料を用いて絶縁処理を行った。
3. 熱線反射ガラスの清掃は、ガラス表面の反射膜に傷を付けないように、軟らかいゴム、スポンジ等を用いて水洗いとした。
3. ○
4. 高さが 1.9m の一般的な木製開き戸の取付けに当たって、木製建具用丁番を 2 枚使用した。
5. 防煙垂れ壁に、フロート板ガラスを使用した。
6. アルミサッシは変形しやすいので、現場内での仮置きは立てかけとした。
7. アルミサッシへの板ガラス(厚さ 6mm)のはめ込みに当たって、グレイジングビードを用いた。
8. フラッシュ戸は変形しやすいので、工事現場における保管は平積みとした。
9. アルミサッシがモルタルに接する部分は、サッシの保護塗膜をはがして付着性を高めた。
10. 外部に面する網入り板ガラスには、縦小口(下端から 1/4 の高さまで)及び下辺小口に、防錆テープを貼り付けた。
11. 浴室に用いるアルミニウム製建具用金物には、クロムめっきを施した亜鉛合金製のものを使用した。
12. 現場内に搬入したアルミサッシの仮置きは、変形防止のため、平積みとしないようにした。
13. ガラスブロック積みにおいて、特記がなかったので、平積みの目地幅の寸法を 4mm とした。
14. 無色透明な板ガラスのはめ込み後、衝突防止のため、板ガラスが熱割れしないことを確認のうえ、ガラス全体に薄い青色のポリエチレン樹脂系の養生フィルムを張り付けた。
15. グレイジングチャンネルを厚さ 6mm のフロート板ガラスに巻き付けるに当たって、継目は上辺中央とし、かつ、隙間が生じないようにした。

16. 室内に用いる木製建具材には、加工・組立て時の含水率（質量百分率）が、20%の人工乾燥材を使用した。
17. ガラスブロック積みにおいて、平積みの目地幅の寸法は、10mm 程度とした。
18. アルミサッシが鋼材と接する部分には、塗膜処理を行った。
19. 高さが2.3mの木製の開き戸には、ステンレス鋼製の木製建具用丁番を3枚使用した。
20. 室内に用いる木製建具材には、加工・組立て時の含水率（質量百分率）が、15%の人工乾燥材を使用した。
21. アルミサッシ部材の寸法を切り詰めたので、モルタルに接する部分にアクリル樹脂系塗料を塗って、絶縁処理を行った。
22. 鉄骨造において、アルミサッシ枠まわりのシーリング材の施工には、プライマー及びバックアップ材を用いて、三面接着とした。



■正誤問題 解答編

1. 屋外に面したアルミサッシについては、合わせガラスを使用する場合、下端ガラス溝に径 6mm の水抜き孔を 3 箇所設けたものとした。
1. ○ **外部に面する複層ガラス、合わせガラス、網入り板ガラスに用いる下端ガラス溝には径 6mm 以上の水抜き孔を 2 箇所以上設けます。**
2. アルミサッシの取付けに当たって、部材の寸法を切り詰めたので、モルタルに接する部分に、アクリル樹脂系塗料を用いて絶縁処理を行った。
2. ○
3. 熱線反射ガラスの清掃は、ガラス表面の反射膜に傷を付けないように、軟らかいゴム、スポンジ等を用いて水洗いとした。
3. ○
4. 高さが 1.9m の一般的な木製開き戸の取付けに当たって、木製建具用丁番を 2 枚使用した。
4. ○ **建具の高さが 2.0m 未満に対しては 2 枚、2.0m 以上 2.4m 以下に対しては 3 枚使用するようになります。**
5. 防煙垂れ壁に、フロート板ガラスを使用した。
5. × **ガラスを使用する場合は網入りガラス (もしくは線入りガラス) を使用します。**
6. アルミサッシは変形しやすいので、現場内での仮置きは立てかけとした。
6. ○
7. アルミサッシへの板ガラス(厚さ 6mm)のはめ込みに当たって、グレイジングビードを用いた。
7. ○
8. フラッシュ戸は変形しやすいので、工事現場における保管は平積みとした。
8. ○ **なお、障子、ふすまは立てかけます。ガラス戸、板戸、格子戸は立てかけ、または平積みとする。**
9. アルミサッシがモルタルに接する部分は、サッシの保護塗膜をはがして付着性を高めた。
9. × **絶縁させる必要があります。はがしてはいけません。**
10. 外部に面する網入り板ガラスには、縦小口(下端から 1/4 の高さまで)及び下辺小口に、防錆テープを貼り付けた。
10. ○
11. 浴室に用いるアルミニウム製建具用金物には、クロムめっきを施した亜鉛合金製のものを使用した。
11. ○

12. 現場内に搬入したアルミサッシの仮置きは、変形防止のため、平積みとしないようにした。

12. ○

13. ガラスブロック積みにおいて、特記がなかったので、平積みの目地幅の寸法を4mmとした。

13. × **特記がなければ、8mm以上、15mm以下とします。**

14. 無色透明な板ガラスのはめ込み後、衝突防止のため、板ガラスが熱割れしないことを確認のうえ、ガラス全体に薄い青色のポリエチレン樹脂系の養生フィルムを張り付けた。

14. ○

15. グレイジングチャンネルを厚さ6mmのフロート板ガラスに巻き付けるに当たって、継目は上辺中央とし、かつ、隙間が生じないようにした。

15. ○

16. 室内に用いる木製建具材には、加工・組立て時の含水率（質量百分率）が、20%の人工乾燥材を使用した。

16. × **天然乾燥の場合で18%以下、人工乾燥の場合は15%以下を標準とします。**

17. ガラスブロック積みにおいて、平積みの目地幅の寸法は、10mm程度とした。

17. ○ **ガラスブロックの目地幅は、平積みにおいては、8mm以上、15mm以下とする。**

18. アルミサッシが鋼材と接する部分には、塗膜処理を行った。

18. ○

19. 高さが2.3mの木製の開き戸には、ステンレス鋼製の木製建具用丁番を3枚使用した。

19. ○

20. 室内に用いる木製建具材には、加工・組立て時の含水率（質量百分率）が、15%の人工乾燥材を使用した。

20. ○

21. アルミサッシ部材の寸法を切り詰めたので、モルタルに接する部分にアクリル樹脂系塗料を塗って、絶縁処理を行った。

21. ○

22. 鉄骨造において、アルミサッシ枠まわりのシーリング材の施工には、プライマー及びバックアップ材を用いて、三面接着とした。

22. × **二面接着とします。鉄筋コンクリート造においては、シールの挙動がほとんどないので、三面接着としてもよい。**